

リディア：聞くこと、もてなし、新しい共同体

使徒言行録はリディアについて何を伝えていますか。

使徒言行録によれば、リディアはティアティラ出身の紫布を扱う商人で、フィリピでパウロの話を聞き、その知らせに応答し、宣教者たちを自宅に迎えます。彼女のもてなしは、生まれつつあるキリスト者の共同体の生活の一部となります。

川辺で耳を傾ける

パウロの一行は、フィリピの門の外で祈りに集まる女性たちと出会います。その一人が神をあがめるリディアで、主が心を開かれ、パウロの話に注意を向けます。使徒言行録は職業と出身地を述べますが、結婚の有無、財産の規模、それまでの信仰の歩みの全容は記しません。物語を語り直すときも挿絵でも、この不明な部分を残す必要があります。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 16章11～14節

出典: acts

家を開く

自分と家の者が洗礼を受けた後、リディアは旅人たちに自宅へ泊まるよう強く勧めます。この箇所は、信仰がもてなしという具体的な形になる様子を描きます。家族全体の洗礼と後世の洗礼実践との関係について、キリスト者の理解は分かります。本文は家の者の構成や年齢を列挙していません。創作した細部で、この広い問題を決着させてはいけません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 16章15節

出典: acts

励ましが続く場所

牢を出たパウロとシラスはリディアを訪れ、信徒を励ましてから出発します。そのため彼女の家は共同体の集まりと結び付きますが、使徒言行録は後の正確な役職も、その後の経歴も記していません。脚色せずに、彼女の決定的な貢献を尊ぶことができます。神の働きかけ、注意深く聞く姿勢、キリストの民のために惜しまず家を用いることが、この物語で結ばれています。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 16章40節・フィリピの信徒への手紙 1章3～7節

出典: acts, letters

出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/lydia>